

トゲ林として疎開した低木林の伐採跡地に造成されたもので、わが国の水田のように畦を作り遊水池のようにすることで長期にわたって樹木が雨水を有効に利用できるよう配慮されている。また一方では農地内にポプラを植栽し、間作としてコムギや農作物の栽培をおこなっている。もちろんポプラの主幹部は箱材や板材に利用されるほか梢端材や間伐材は所有者が燃料材として利用している。

以上、アグロフォレストリーの導入と林木の役割りについての事例を示したが農業や畜産のために開発された林地に、林木の植栽をおこなうことで森林の効用を保ちつつ社会の要求に対処することを考えていかなければならない地域が年々増加している。その際、地域の社会的背景に見合ったアグロフォレストリーが導入されなければ実施する意義は乏しいといえよう。近い将来地球の半分が飢えるという声も聞かれるが、この種の問題は非産油発展途上国では一段と厳しいものがあり、その飢えは水や燃料なしに食糧だけを与えても解決できるものではない。この点からも多くの人達に林木の存在価値について理解を深めてもらうことが肝要であろう。

新刊紹介

◎ブルネイの植物病害と病原微生物目録 第1集 (PEREGRINE, W. T. H. & AHMAD, K. B.: *Brunei: a first annotated list of plant diseases and associated organisms*. CMI—Commonwealth Mycological Institute—, Phytopathological Paper 27, 87pp. 1982, 定価 6.50 ポンド, 邦価約 3,200 円)

著者らは長らくこの国の農業省にあって作物保護、とくに病害防除の研究にたずさわってきた。最近の農林業再発展への政策転換もあって、著者らは英国の連邦菌学研究所 (CMI) の協力をえて、ブルネイ国の植物病害と病原微生物の調査を行い、戸籍簿ともいうべき目録づくりに努めてきた。隣接するマレーシア領サバ州とサラワク州については、すでに植物病害と病原微生物の目録が出来上がっている (CMI, Phytopathological Paper 13, 1971—サラワク; 同 19, 1976—サバ; 同 21, 1977—サバの追補)、本書の完成によって旧英領北ボルネオの植物病害とその病原体のリストはひとまず完成した。

本書では植物 (宿主) が A, B, C 順に配列され、植物の種ごとにブルネイで寄生が記録された病原体 (ウイルス, 細菌, 菌類, 地衣, 藻類—生理病も含まれるが、線虫, ヤドリギは除かれている) が同じく A, B, C 順に記載され、病名, 侵害部位, 寄生性, 被害程度, 有効な防除薬剤などが簡潔に述べられ、読者の便がはかられている。

著者らは元来農作物の病気を専門とする研究者であるが、この目録には樹木類とその病原体もかなり収められていて、宿主樹木にして 60 属 88 種 (果樹・特用樹 14 属 28 種を含む) 上に 444 種類 (同 286 種を含む) の病原微生物が記録されている。林業上の有用樹種としては *Acacia*, *Araucaria*, *Casuarina*, *Eucalyptus*, *Pinus*, *Pterocarpus*, *Shorea*, *Tamarindus*, *Tecoma* などが含まれ、熱帯の森林病害に関心を持つ人にとっては備えておきたい書物のひとつである。(小林享夫)